

「人と動物の一つの衛生を目指すシンポジウム —人獣共通感染症と薬剤耐性菌—」開催される

平成28年3月20日(日)、日本医師会大講堂にて、厚生労働省主催、農林水産省、(公社)日本医師会及び(公社)日本獣医師会の共催による標記シンポジウムが開催された。開会にあたり、塩崎恭久厚生労働大臣、森山裕農林水産大臣(代読：小風 茂農林水産省消費・安全局長)、横倉義武日本医師会会長、藏内勇夫日本獣医師会会長による挨拶の後、講演が行われた。講演では、それぞれの分野の講師が最新情報等を紹介し、全国から参集した医師、獣医師、関係者等247人が熱心に耳を傾けていた。

開催概要及び主な内容は次のとおり。

[開催概要]

- 1 開催日時：平成28年3月20日(日)
(13:30開場、14:00～18:00)
- 2 場所：日本医師会大講堂
(東京都文京区本駒込2-28-16)
- 3 参加費：無料
- 4 主催：厚生労働省
- 5 共催：農林水産省、(公社)日本医師会、
(公社)日本獣医師会
- 6 開催主旨：

エボラ出血熱や中東呼吸器症候群(MERS)などの、動物から人へ、人から動物へ伝播可能な感染症である人獣共通感染症は、すべての感染症のうち約半数を占めており、医師及び獣医師は活動現場で人獣共通感染症に接触するリスクを有している。こうした分野横断的な課題に対し、人、動物、環境の衛生に関わる者が連携して取り組むOne Health(ワンヘルス)という考え方が世界的に広がってきており、日本においても、One Healthの考え方を広く普及・啓発するとともに、分野間の連携を推進することが重要である。

こうした観点から、医療関係者や獣医療関係者、さらに衛生関係者、人獣共通感染症に関心のある人々を対象とし、日本医師会及び日本獣医師会等と共催で、厚生労働省主催の第1回目のシンポジウムを開催する。

7 目的：

One Healthについての知見及び各分野の取組を紹介し、One Healthに関する考え方の普及・啓発を図る。また、One Healthの考え方で取り組むべき課題の具体例として、世界的にも問題視されている薬剤耐性問題(Antimicrobial Resistance, AMR)について取り上げ、知見及び各分野の取組を紹介し、AMRに

関する知識の普及とともに、課題の把握及び改善を図る。

[主な内容]

主催者として、塩崎恭久厚生労働大臣が、共催者として、農林水産省 小風 茂消費安全局長、(公社)日本医師会 横倉義武会長、(公社)日本獣医師会 藏内勇夫会長がそれぞれ挨拶された。

講演Ⅰでは、国立医薬品食品衛生研究所 春日文子安全情報部部長が座長となり、①WHOによるONE HEALTHに基づくAMR対策への取組について、WHO西太平洋地域事務局(WPRO)葛西 健事業統括部長が、②日本医師会及び日本獣医師会の連携と貢献について、(公社)日本医師会感染症危機管理対策室長 小森 貴常任理事が、③人と動物の共通感染症の取組として、(公社)日本獣医師会 酒井健夫副会長がそれぞれ講演された。

講演Ⅱでは、国立感染症研究所 倉根一郎所長が座長となり、①ONE HEALTHとは、と題して、北海道大学大学院獣医学研究科動物疾病制御学講座微生物学教室 迫田義博教授が、②薬剤耐性(AMR)に関する背景、国際社会の動向及びわが国における現状について、厚生労働省健康局 浅沼一成結核感染症課長が、③家畜等に使用される抗菌性物質に対する農林水産省のリスク管理措置として、農林水産省消費・安全局 磯貝 保畜水産安全管理課長がそれぞれ講演された。

講演Ⅲでは、国立国際医療研究センター 大曲貴夫国際感染症センター長が座長となり、①医療分野で問題となる耐性菌感染症とその対策～抗菌薬適正使用を中心に～と題して、東北大学病院総合感染症科 具 芳明講師が、②食用動物由来耐性菌の現状とリスク管理と題して、酪農学園大学獣医学群衛生・環境学分野食品衛生学 田村 豊教授がそれぞれ講演された。



図1 塩崎厚生労働大臣の挨拶を壇上で聴く小風農林水産省消費・安全局長、横倉日本医師会会長、
藏内日本獣医師会会長



図2
挨拶をする塩崎恭久
厚生労働大臣



図3
挨拶をする小風 茂
農林水産省消費・安
全局長



図4
挨拶をする横倉義武
日本医師会会長



図5
挨拶をする藏内勇夫
日本獣医師会会長



図6
講演する酒井健夫
日本獣医師会副会長



図7 会場を埋める聴衆に挨拶する藏内日本獣医師会会長